

# 歴史散歩



わくんのしおり

## 江戸時代の国語辞典 **和訓栞**

10月16日は、アメリカでDictionary Day(辞書の日)とされています。アメリカ英語辞書の生みの親であるノア・ウェブスターは1758年のこの日に誕生しました。イギリスからの独立により愛国心が高まっていたウェブスターは、アメリカ人はアメリカ英語を学ぶべきだと考え、1828年にアメリカ特有の単語や用法などをまとめた辞書を発表します。その後、ウェブスターの辞書は100年もの間、教育現場で愛用されました。

ウェブスターが生きた時代、日本では江戸時代です。このころ辞書といえば、谷川士清が思い浮かびます。士清は、宝永6(1709)年に津市の八町で生まれました。家業の医師を務める傍ら国学の研究に打ち込み、日本書紀全巻の注釈書「日本書紀通証」を出版し、その付録として動詞の活用図表「<sup>わごつうおん</sup>倭語通音」を載せました。これは、日本語の動詞は、五十音の行に沿って活用するということを表したものです。当時、国語辞典の多くはイロハ順配列でしたが、多くの言葉の研究を行っていた士清は、五十音順がふさわしいと考え、日本最初の本格的な五十音順の国語辞典である「和訓栞」の作成を始めます。そして、士清没年の翌年の1777年、遺族の手により引き継がれ、和訓栞の刊行が始まりました。

和訓栞の特徴は第2音節までが五十音順配列になっていることです。また、見出し語は平仮名で、その下に漢字で表記しています。さらに、語源の説明も多く見られることから、語源辞典の側面を持ち合わせています。何より、収録された言葉は2万897語にも及び、当時の類書をはるかにしのぐ大作でした。このように、和訓栞は形式や内容、収録語数から見ても、現代の国語辞典の形にいち早く到達したものとと言えます。

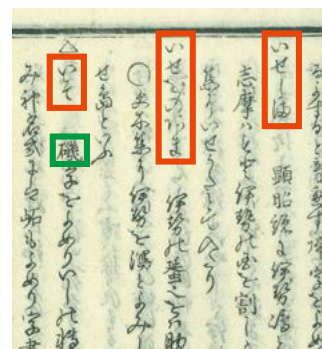
この和訓栞は、現在、谷川士清旧宅で展示され

ています。かつて士清が医師として、そして国学者として過ごした場所に建つ旧宅は、当時のただずまいを今日に伝え、士清の人となりや業績を紹介する資料などの展示も行われています。

辞書の日にちなみ、江戸時代に津で辞書を作った国学者・谷川士清の旧宅にぜひお立ち寄りください。



谷川士清旧宅(国指定史跡)



□ : 平仮名見出し  
□ : 漢字表記

和訓栞  
(前編巻之三の部)



**おわび** 広報津9月16日号15ページ「歴史散歩136 津市最大の平山城 安濃城跡」の記事中にある「長野氏当主の藤具」は、「長野氏当主の具藤」の誤りでした。おわびして訂正します。